



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 46

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 46. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1956, 46: 15-20

ISSUE DATE:

1956-07-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186824>

RIGHT:

録 事

今月より実験所では各大学の臨海実習が連続して実施され、水族館もその方に人手をとられるので、半月以上も臨時に切符受取の人を備へ入れざるを得ない。連日曇りがちではあるが、この季節には殆んど大雨もなく、地方商社の招待による団体客で梅雨枯れの閑散時も割合に賑わった。

瀬戸内海の鯛網シーズンも終り、7日玉野海洋博物館より魚の購入に回船されたが、生憎魚の持ちの悪い時候でもあり、その数も種類も思わしく揃わなかったのは気の毒であった。

13-14日、国立白浜温泉病院で取員の定期身体検査を実施した。

20日閉館^後の例会で、内海主任より各地水族館施設や運営上参考となる事柄が披露され、そのひとつとして早速21日から魚類及び魚類以外の水族の斃死数又は現存数を毎日記帳することを始め、月末にはこれを集計して、月々の統計をとることになった。又、水族館の改築計画については各取員の経験を参考にし、上で設計にとりかかる様申し合せた。これについては滞米中の時岡委員からも意見が寄せられた。

先月出来上った2基の塵埃焼却爐は煉瓦むき出しのままでは風致上芳ばしくないと風評により、この程パステルカラー調のグリーンのラテックスを塗装することにした。

多年の要望である町水道の臨海地区への延長が、大学側がその費用を半分分担するならば本年度内での実現の可能性が確実となったので30日近隣相つとい町当局よりその計画の概要を聴取すると共に、実施方の促進を懇請した。

業 務 概 況

◎ 6月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累計	本月分計	累計	本月分計	累計
大人	4728	29421	7529	52794	12257	82215
小人	184	2221	54	849	238	3070
団体	11015	42452	—	—	11015	42452
合計	15925	74094	7583	53643	23510	127737
無料入場者なし						

団体：一般 81組， 学生 8組 計 90組

◎ 6月の事業収入

	累計
観覧券売上金.....	41,2634 2,345,518
積立金} 利子.....	49,082 49,082
雑 収 入.....	7,940 9,560
5月よりの繰越.....	1,114,184 —
計.....	1,583,840

◎ 6月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	106,577	203,481	200.4.81
会 議 費	270	62,039	
備 品 費	100	100	海洋観測常用表
消 耗 費	12,838	32,738	
事 業 費	37,191	105,326	
維 持 費	1,365	23,650	
其他諸経費	20,535	95,503	
積立金	70,971	397,514	
合 計	249,847	947,351	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研究費	20,000	30,000	山崎、布施委員
奨学金	5,000	15,000	
備品費	10,400	10,400	Discov. Rep. 27巻
合 計	35,400	55,400	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人件費	8,060	18,060	
消耗費	112	112	
合 計	8,172	18,172	

臨時費

摘 要	金 額	累 計	備 考
塵埃焼却爐及塗装	32,600	228,600	
合 計	32,600	228,600	

支出合計

		累 計
水族館経費	249,847	947,351
実験所経費	35,400	55,400
博物館経費	8,172	18,172
臨時費	32,600	228,600
計	326,019	1,249,523

6月末現在高.....1,257,821

支出累計.....~~326,019~~
1,249,523

◎ 前年度との比較

	1955	1956	増 減
入場者数	15767	23510	+ 7743
売上金	289,254	412,634	+ 123,380
支出金	578,660	326,019	- 252,641

水族館記事

エビスタイの白斑病は最近漸く快復してきた。

メチレンブルー療法はエビスタイにはその効果は顕著であるが、他の魚類には概してその効能がみとめられない様である。此の頃、魚の斃死が目立って多くなったが、入槽後眼などに瘻の様は薄い膜の張るのが遠因の様に思われるが何か適当な処置法がないかと案じられる。

月末の5日間、水族館入口の水槽を清掃して干いた。

- ◎ 4日、富田小学校よりカブトガニ 1匹の寄贈を受け、笠岡の仲間とNo.29水槽で仲よく活動している。
- ◎ 7日玉野より寄贈されたキューセン 25匹、タコ 7匹の代りに当館所有のアオウミガメ 1匹を提供した。
- ◎ 10日 No.28水槽に入った緑色の美しいヤナギベラは14日死亡。
- ◎ 15日 No.28水槽のテンス 1匹死亡。
- ◎ 20日水族館南浜で中学生が産卵後の亀を発見、南、近藤館員が捕獲運搬して屋外の海亀プールへ入れた。
同日サカタサメ 1匹死亡。
- ◎ 21日 4ヶ月余り No.24水槽で元気に泳ぎまわっていた大きいオのカンダイが1匹死亡した。
- ◎ 22日 No.15水槽のキューセンは本日で全部斃死したが、砂底の水槽の方が住みよいのではないかとと思われる。

博 物 館 記 事

- ◎ ツノガニの正常な額棘の基部から同形の額棘が左側に生えた畸形標本(尾崎光之助氏寄贈)とヘリトリマンジュウガニの左鉄脚の可動指が二又に分れた畸形標本(山本虎夫氏寄贈)を新たに展示した。
- ◎ トゲスズガイの泥板岩中に穿孔しているものを山路委員が畑島で見つけたので之も同時に展示した。
- ◎ 徳島縣勝浦町大字坂本の美馬六合光氏より珍しいお葉付銀杏2枚の寄贈をうけた。
- ◎ 去る2月26日南部町在の尾崎光之助氏が切目崎で採集して寄贈された赤褐色のウニは、水州沿岸では初めてのタマゴウニと判明した。本邦に産する生きたものとして極めて貴重な標本であるので、25日同氏の招きにより舟で切目崎を訪れたが遂に1個も採り出すことが出来なかった。

資 料

◎ 6月の気象

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数(2)	4	6	2
気 温 (C°)	$\frac{20.9 \sim 25.1}{23}$	$\frac{21.6 \sim 24.4}{24.1}$	$\frac{20.6 \sim 26.3}{24.2}$
水 温 (C°)	$\frac{22.1 \sim 24.1}{22.9}$	$\frac{22.2 \sim 25.3}{23.8}$	$\frac{23.0 \sim 25.8}{24.3}$
比 重	$\frac{22.5 \sim 24.3}{23.4}$	$\frac{22.5 \sim 24.1}{23.6}$	$\frac{22.7 \sim 24.1}{23.3}$

但し { 気温は南水槽室
水温 } は No. 25 水槽 で 9 時測定
比重

来 訪 録

- 6月7日～12日 読売新聞社遠藤、古沢、水谷記者等再来、アクアラ
 ラングを使用して海中の動物実写、水族館で飼育のウミガメ、イセ
 エビ等撮影のため貸与す。
- 6月7日 玉野博物館員 魚類調査のため来訪。
- 6月6日 滋賀県建築課長 井上 秋太郎氏
- 6月7日 滋賀県水産課主事 松田 壽美氏、技師 清水 当午氏来館。
 大津市に琵琶湖を中心とする淡水水族館設置計画のため。
- 6月14日 南海電鉄事業課長前島 武氏、金 塚 家 邦 男 氏 (元 浜
 甲子園水族館主任)来館、南海電鉄で南淡ノ輪に設置計
 画中のアメリカのマリーナランド式の水族館に開館迄に準備に
 おく魚類の越冬方法につき相談を受け、協力を求められ、
 海水プールは冬期15℃以下に下るを以て受けあえす。
- 6月20日 産経新聞写真部 大 腰 利夫氏来館、イソギンチャク・カニ
 等を撮影す。
- 6月26日 大蔵省主計局 竹中 昭一事務官、和歌山大学会計課長
 山崎 雨三郎、京大会計課主計掛長 竿田 徳太郎氏、企理学部
 事務長 生駒 正教 (委員) の4氏来館。
- 6月29日 南町長の来内で河野衆相来館。

昭和31年 7月3日発行 (No.46)

編集兼
発行人

内 海 富 士 夫

発行所

瀬戸臨海実験所振興会

和歌山県白浜町

瀬戸臨海実験所内

(Tel. 白浜温泉515)